

小ネギの安定生産技術

夏どり小ネギの優良品種選定

県内の中津下毛・宇佐両院、東国東地域等で小ネギの周年栽培が行われています。

現地での重要な問題として、5～8月播種作が高温等による発芽不良や葉先枯れ等の生育障害がおきやすく収量や品質が低下するので、夏どりの新しい品種が望まれていました。

当部では、平成15年度から各産地で栽培されている夏どり品種と有望と思われる品種の6品種で栽培比較試験を行いました。その結果、品質及び収量ともに優れた品種「夏彦」を選定しました。



品種試験の様子



「鴨頭」と「夏彦」

夏どり品種「夏彦」の品種特性

生育や収量

生育は良く、6月播の場合、は種後60日で収穫適期になります。

M品の平均一本重が重く、多収です。

品質

葉色は良く、葉鞘径が細い。

草姿は葉先の曲がり少なく立性で葉身の形が良い。

葉質が硬く商品性が優れています。

第1表 品種の収量と品質（16年）

品種名	調製重	一本重	葉鞘径	葉色	糖度	発芽率(%)			葉先枯れ 率(%)
	(g/m ²)	(g)	(mm)		(%)	20	30	40	
鴨頭	2,360	6.2	5.1	59	8.7	98	95	34	0
夏彦	2,733	7.7	4.9	55	6.8	97	98	18	0
夏作	1,893	5.8	4.6	60	6.3	100	100	15	0
ねぎS	3,140	6.7	5.3	58	6.5	100	100	15	0
H-39	3,460	6.1	5.1	56	7.0	97	98	13	0
葉王	2,867	6.7	5.7	58	7.2	95	98	16	0

栽培のポイント

- ・播種量
3.0～3.5t/10a
- ・水管理
「鴨頭」と同程度
水切りによる過乾燥に注意

注) 平成16年は6月2日播種、8月2日収穫調査

一本重はM規格の平均、葉色はミルクSPAD502

糖度は葉鞘部のBrix、発芽率は恒温器での発芽試験結果。

(野菜部 主任研究員 安部 貞昭)